



竹田 英司

昨シーズン2位のパナソニック、3位のサントリーとの練習試合のため、大阪遠征中の宿舎で本コラムを書いている。ホテルで執筆するなんて、まるで作家になった気分だ。

関係各所のご尽力のおかげで、開幕1カ月前にようやくエドガー、陳建禎の両外国籍選手が入国できた。

自宅待機期間が明けた陳選手は全体練習に参加し始めたところだが、ボール勘を取り戻すの

◎ 戦力そろい絆深める

に苦しんでいるようだ。それでも彼ほどの一流アスリートなら、後は時間が解決するだろう。「髪、切った？」と聞くと、「うん、千円カットで」と答える陳選手の飾らない人柄は変わらぬままで安心した。

エドガー選手は自宅待機中でまだ会えないが、ファンサービスのためにサインの依頼があったので電話してみた。「合宿所のロビーに色紙を置いたのでサインを」と私が言い終わる前に、懐かしいオーストラリアなまりの英語でまくし立ててきた。「おいおい、相棒、半年ぶりに声が聞こえたと思ったら、いきなり仕事の話かい。おまえさんは相変わらずだな。『会いたかったよ、トム、元気だったか』くらい言ってくれないのか」。顔は見えなくても笑顔が浮かぶ。豪快な笑い声も携帯電話越しに聞こえてきた。

これで戦力が全てそろった。感染症対策に万全を期しつつ、開幕までにチーム全体の連携と絆をさらに深めたい。

スパイク練習の順番待ち中に西知恕選手⑥と言葉を交わす陳選手⑤ (2日)

